

- デザインマニュアルとその必要性
- システムが壊れないようにする
- 効果を維持するためにフィックスする
- 「VIマニュアル」でむだを省く
- 現在あるデザイン要素でシステム化する「再VIシステム」
- 推奨「VIマニュアル」表現法
- VIマニュアル基準書の構成例（基本デザインシステム/展開デザインシステム）
- 制作スケジュール

企業の姿を視覚化し、見た目の統一と整備がビジュアル・アイデンティティ・デザインシステム(以下VIシステム)です。

VIはシステムですから、運用マニュアルが必要です。「VIマニュアル」とよばれます。

「VIマニュアル」は、たとえデザイナーでなくても正しく美しく運用するための手引書であり、基準書でもあります。

VIシステムとVIマニュアルはセットといっても言い過ぎではありません。

企業が発信したいイメージを正しく効率良く伝わるように組み立てたものが「VIシステム」で、運用のための「デザイン公式」が存在します。その「公式」と実際の場面でどう当てはめて応用し「定着」させるかということが書いてあります。

VIシステムは作ったその瞬間から壊れはじめると言われていています。VIシステム作りに携わった担当者やデザイナーは、そのために費やされたエネルギーやコミュニケーション戦略といったことへの理解と愛情があるから壊しません。

しかし、新たな担当者や、デザイナーは全く逆の考え方をします。特にデザイナーは創造者で、創造は一方では破壊でもあるので、現状否定からスタートします。

発注担当者もずっと同じデザインに囲まれて仕事しているので、「かわりばえしない」と勘違いして「何か別の新たな工夫」を加えることになります。担当者以外の社員、取引先、顧客はまだ、認知すらしていない段階から、システムを動かしてしまうのです。デザインは単純明快で伝わるという特徴がありますので、VIシステムを発展させて強化する、ということにならない場合がほとんどです。

## 効果を維持するためにフィックスする

長い時間と費用をかけて作ったシステムを次の人が壊してしまって元の木阿弥にならないために各要素と公式を明示します。各要素つまり企業シンボル、企業カラーをはじめとするデザイン要素を軽々しく変形しないために、それぞれの意味を明示して注意を促します。

「VIシステム」は一貫性と繰返しが不可欠だからです。「どのくらいの大きさに使えばいいのか?」「どんな組み合わせで使えばいいのか?」「デザインアイテムに入れるときにはどうしたらいいのか?」など見せ方・使い方を体系化したものを使用ルールに規定します。実際の使用に際してのルールを徹底することで、システムとしての価値は最大化されます。

マニュアルが存在しなければ、統一化、標準化が難しく、イメージ形成による企業ブランド資産価値は定着しません。

新たな担当者やデザイナーは、「VIマニュアル」が存在することで、企業にしっかりとした「VIシステム」(公式)があることを理解し、特にデザイナーは、明示された理念とビジョンにそった「VIシステム」を継続してくれます。反対に「VIマニュアル」がなければ、デザイナーは「VIシステム」がないと判断して、何か新たなものをゼロから創造しようとしています。

「VIマニュアル」でその土台からスタートできるので、基本戦略がぶれない上、無駄な時間と費用を節約できます。よく言われる、マニュアルによるコストダウン(手間を省ける)と効率アップ(伝達効果)です。

## 現在あるデザイン要素でシステム化する「再VIシステム」

どの企業にも「VIシステム」は存在します。しかし永年にわたって扱い回されて(適応も含む)相当いびつに変形しています。しかし、企業シンボルはじめ各要素までは変更したり新たに作るタイミングではない企業も多いでしょう。

その場合システムの見直し(新たな公式)と再整備(新たな組み合わせ)とします。

企業の望む(望まれる)イメージ形成に合わせた表現形、サイン、会社案内、パンフレット、広告、ホームページを総合的に見直して様式と品質の統一を図り、それをマニュアルにフィックスします。

「広報物の視覚統一をしたい」「システムのフォーマットがほしい」といった、部分領域のシステムにも柔軟に対応いたします。

推奨する「VIマニュアル」は、これまでのバインダー形式の紙印刷から、CD-ROMに収録しそのCD-ROMケースに小さなダイジェスト版のブックレットと色見本チップを収め、同時に、内容をPDF形式にして企業のイントラネットで管理する方法です。

バインダー形式の紙印刷ほどの、存在感と威圧感はありませんが、コストダウンと、変更が可能だということ、閲覧・配布が簡単で「VIシステム」の広い普及と正しい理解につながります。

## VIマニュアル基準書の構成例（基本デザインシステム）

### カバーデザイン

表紙



■ 構成例となります。展開デザインアイテム数によりページ数を定めます。（お見積では16ページとしています。）

■ システム構築、コピー制作、編集、レイアウトの後、電子版もしくはカラーコピーによる出力校正。修正等を含め、最終確認の後、社内電子版（もしくは印刷用の入稿データ）として完成させます。

### 基本デザインシステム

基本デザイン  
扉



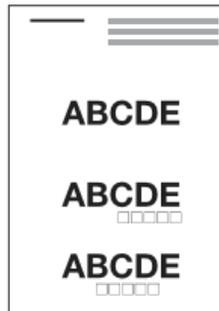
基本デザイン要素  
一覧

VIデザインシステムを構成する主な基本デザイン要素の一覧と簡易説明



シンボルマーク

シンボルマークの役割と種類と使用方法



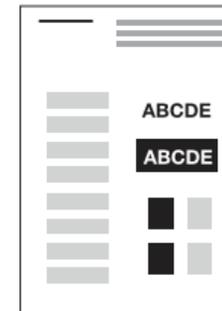
正式社名ロゴタイプ

正式社名ロゴタイプの役割と種類と使用方法



カラーシステム

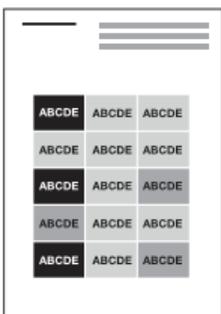
企業イメージを伝えるための表示色規定



## VIマニュアル基準書の構成例 (基本デザインシステム・展開デザインシステム)

背景色コントロール

シンボルと背景色の関係性の規定



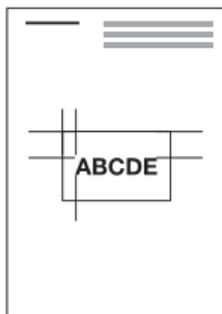
指定書体(和・英)

デザイン要素としてシンボルとの相性を考慮し選定した、一般書体の使用規定



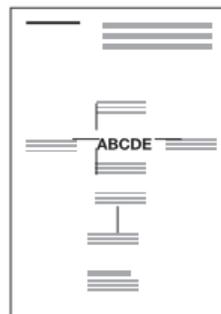
アイソレーション範囲

シンボルの独立性を保つために設けるスペースの規定



シグネチャシステム  
社名の組合せ

シンボルと社名ロゴタイプ・住所等を表示する際の理想的な位置関係を規定



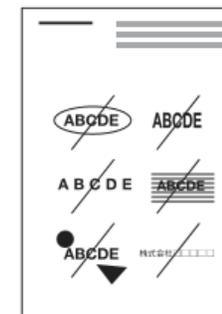
グラフィックパターン

シンボルを応用展開した、背景用デザインなどの使用規定



使用禁止例

デザイン要素の誤った使用を避けるための誤用例

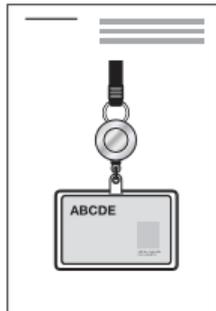


## 展開デザインシステム

展開デザイン扉



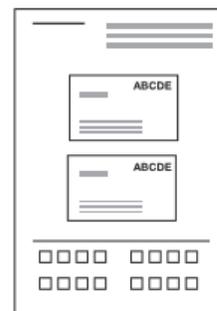
社員証



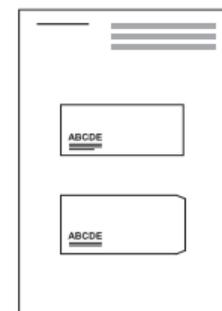
名札



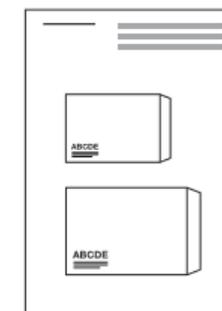
名刺



封筒(小)



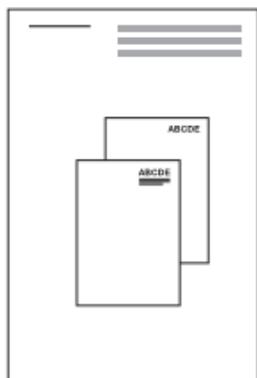
封筒(中、大)



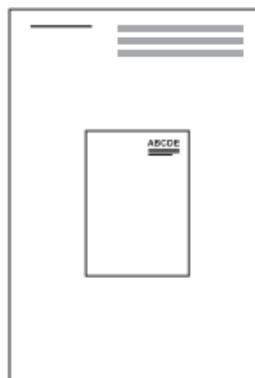
## VIマニュアル基準書の構成例（展開デザインシステム）

### 展開デザインシステム

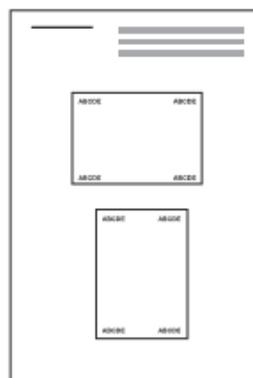
レターヘッド



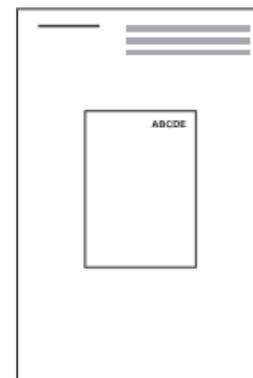
ニュースリリース



パワーポイント  
フォーマット



会社案内表紙



手提げ袋



### 仕事事例

[https://k-powerz.jp/docs/a\\_02.pdf](https://k-powerz.jp/docs/a_02.pdf)

[https://k-powerz.jp/docs/a\\_01.pdf](https://k-powerz.jp/docs/a_01.pdf)

### STEP 1

ビジュアルオーディット

- ・現状把握を目的としたヒアリング
- ・課題抽出

### STEP 2

基本要素の感覚修正

- ・形・色の見直し
- ・精緻化

### STEP 3

アイテムデザイン

- ・デザインシステム提案

### STEP 4

ルール規定

- ・ページレイアウト
- ・文章化/数値化

3week

5week

4week

▶今までに制作しました事例となる『VIデザインシステムマニュアル基準書』の制作物見本をお見せいたします。

お問い合わせは

<https://www.k-powerz.jp/contact/>